

朝潮橋駅
80分
コース

Osaka Metro まちさんぽ

中央線 朝潮橋駅

朝潮橋が、消えた！

地盤沈下に世纪の盛り土工事

戦前の港区は大阪市最大の人口を抱えるまでに発展しましたが、工場やビルなどの地下水の過度の汲み上げで地盤沈下が生じ、そこへ戦争の空襲で壊滅的な打撃を受け、終戦直後には枕崎台風による高潮が襲うという災害が重なりました。そこで、世界でも類のない世纪の盛り土工事が敢行されたのです。



朝潮橋駅
80分
コース

Osaka Metro まちさんぽ

中央線 朝潮橋駅

朝潮橋が、消えた！

スタート駅



約 80 分



ゴール駅

中央線朝潮橋駅④号出口

中央線朝潮橋駅



1 朝潮橋・世紀の盛り土工事

新田として開発された港区には、水利や運搬に利用された井路川が網の目のように通じていました。明治36年(1903)、西区の花園橋から築港に至る築港大道路(現在のみなと通)が完成したときに、井路川に多数の橋が架けられました。朝潮橋は、井路川を拡幅した安治川運河(八幡屋運河)に架けられた橋です。港区は、地盤沈下と高潮被害から土地を守るために、昭和23年(1948)に区域内の490haの面積に2mの盛り土で嵩上げして区画整理するという前代未聞の大事業に着手しました。強い反対もありましたが、工事中にジェーン台風に襲われて大きな被害が出たにもかかわらず、盛り土が完了していた地区には高潮被害がなく、これを機に工事の機運が高まり、建物だけでなく市電軌道と道路の嵩上げ、社寺の移転、公園・学校の整備もなされるという世界でも類のない世紀の大工事となりました。同時に安治川を拡幅し、三十間堀川と天保山運河を浚渫して河川改良を図り、採取した土砂を盛り土に利用するなど、工事は20年近くの歳月を費やして完成しました。朝潮橋が消えたのも昭和26年(1951)に安治川運河が埋め立てられて盛り土されたからです。朝潮橋駅は築港大道路に敷設された大阪市電の停留所名になっていましたが、橋が消えたあとにも駅名は残り、市電廃止後、現在ではOsaka Metro中央線の駅名に受け継がれました。

2 三津神社・夕凪

三津神社は、明和元年(1764)に石田三右衛門が石田新田を開拓するときに天照大神を勧請したのが創始とされています。明治の晩年に田中産土神社(大海大神)を合祀し、さらに大正期に八幡屋住吉神社を合祀して、昭和になって社号を三津神社と改称しました。昭和42年(1967)に盛り土工事と換地により安治川近くから現在地に移転しました。地名の夕凪は、近くの井路川に架かっていた夕凪橋から生じたものです。大阪市電唱歌には「波は音せぬ夕凪や」と歌われています。



3 唯称寺

唯称寺は安治川拡幅工事で現在地に移転しましたが、もとの場所は現在の安治川に面して、門前から安治川を渡る「松の鼻の渡し」がありました。慶応4年(1868)に鳥羽伏見の戦いで徳川慶喜が大坂城を脱出して海路で江戸へ逃げようとしたとき、ここから天保山沖の軍艦に向いました。



4 三先天満宮

天保6年(1835)、池田屋大吉が新田を開拓するにあたって勧請し、現在の三先、池島地区の氏神となっています。戦災と台風で大きな被害を受け、盛り土工事と港南中学校の拡張に伴って現在地へ遷座されました。末社の「寝牛社」は牛の形をした靈石で、かけらを煎じて飲むと眼病に効くとされ、頭から首にかけて削り取られています。



5 三十間堀川

三十間堀川は天保山運河と尻無川を結ぶ短い水路で、明治時代の港の埋め立て工事で放水路として埋め残された部分といわれています。現在はコンクリートの背高い護岸擁壁に遮られて外から水面が見えません。



6 勝利の女神像(池島公園)

台座に「当公園と彫像は、地元の人々の多大な協力によってすすめられた、この歴史に残る土地区画整理事業を記念して建設されたものであり、他の20数カ所の公園とともに、新しい地域社会の憩いの場となることを念願する」と書かれ、大事業を成し遂げた地元の人々の誇りが「勝利の女神」として表れて、昭和55年(1980)に建造されました。



7 八幡屋公園

文政12年(1829)に八幡屋忠兵衛が開発した八幡屋新田の地に、大正12年(1923)に競泳プールや陸上競技場、野球場などを備えた12haの大阪市立運動場として建設されました。戦後には国際大会を開催する陸上競技場として改装され、国際見本市会場にもなりました。その後、陸上競技場は長居公園へ、見本市会場はインテックス大阪へ移設ましたが、平成9年(1997)に「なみはや国体」を開催するにあたって、大手前にあった大阪市中央体育館と扇町公園にあった大阪プールをここへ移転しました。体育館は樹木の覆う小高い山になった半地下構造の外観が特徴的です。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。
なお、掲載している情報は2023年11月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先) 大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp
後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または 大阪あそ歩 で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行